

今年の漢字へ想い

京都の清水寺を参拝した知人は、12月12日に発表される「今年の漢字」の募集箱の前で立ち止まってしまったらしい。二文字の熟語なら今年の世相に合った漢字が思い浮かぶが、1文字限定は難しいらしい。私も毎年12月末に私なりの「今年の漢字」を選んでコラムで報告しているが、今のところ全くイメージがわからない。

今年も様々な出来事・事件があったが、どれも真実を知る術はなく全て「不可解」のままである。ビッグモーターズでの会見には、当事者の要であると言われていた副社長は父(社長)の庇護で会見から逃げた。旧ジャニーズ問題では、メディアとジャニーズ事務所との関係が今も具体的には明かされていない。そして、宝塚歌劇団の自殺問題では、伝統としきたりに隠れ続けたいじめやパワハラの実態は闇に葬られたままである。

私たちは鉄壁な組織を求めているわけではない。求めているのは安全と安心のはずである。組織が間違いを起こしたとしても柔軟に修正し、真実を明らかにし、当事者やトップたちが矛盾のない真摯な対応をすることによる信頼感の回復を求めている。真実の不明確さや隠ぺいは興味をそそる噂や情報を生み出してしまふ。ネガティブで誤解的なスキャンダルがその一例でSNSを通してどんどん拡散していき、人の興味関心はやがて真実から離れていく。日本人は大概のミスも「おかしいな」と感じながらも時間の経過とともに水に流してしまう鷹揚さ(?)もあるはずだ。しかし、自分たちが犯した過ちをいつまでたっても認めず説明責任を果たさない卑劣さは許すことはできない。故に、未だ十分な説明責任を果たせていない小淵衆議院議員に「ドリル優子」という言葉が付きまとう。

事件ではないが、今もっとも不可解なのは羽生結弦の電撃離婚だろう。彼の能力や活躍は称賛に値するだろうし、彼の誠実さを疑う人はいないだろう。しかし、この間の報道を見る限り母は遠征などにも常に付き添い、食事をつくり荷造りまでしていたらしいので、母子密着型で母は高い壁だったのだろう。彼の衝撃的な理由の発表などに賛否両論はあるが、彼の秘密裡の結婚対応は母への唯一の反抗だったのかも知れない。

不可解な気分をいっぱい背負って、今年も師走を迎える。なんとなく私の今年の漢字のイメージが湧いてきた。

(丹羽 豊)